

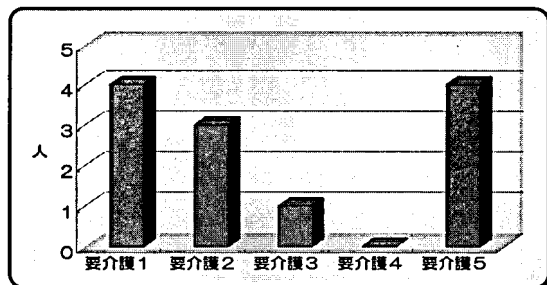
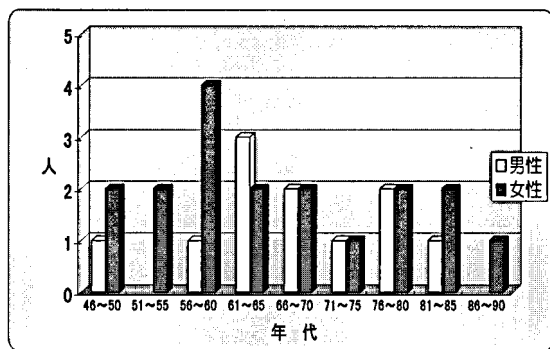
47 高齢 CAPD 患者の在宅支援を考える

JA 長野厚生連佐久総合病院 4 階東病棟
 柳沢弘美 上原和恵 清水智江 宮下裕夫 鷹野美代子 三石清子
 宮沢文江 嶋田千代子 池添正哉 小野満也 山口博

はじめに

当院では心疾患や脳疾患などで血液透析から腹膜透析(以下 CAPD とします)に変更を余儀なくされる患者や、CAPD が必要となる高齢患者が増えている。このような患者が在宅で CAPD を継続していくことは、家族は在宅での治療にかなり抵抗を示し絶対に無理と考える傾向があり在院日数が延び、退院調整が困難である。また、そのような患者が自宅での治療をするには家族の協力が不可欠になる。このような背景から、複数の部署との連携を持ち、自宅で安心して CAPD が行なえるよう支援できるよう CAPD 連絡ノートを作成し、活用したので報告する。

当院年代別 CAPD 患者・介護度分布図



男女共に 60 歳以上の患者が 70% 以上を占めている。患者 30 名中 12 名の患者が介護を要しています。

目的

当病棟では、CAPD 患者は、血液透析患者に比べ患者数が、はるかに少なく、安全に行なう手技を熟知している看護師が、そう多くないことも患者教育上問題です。そこで

1. CAPD 患者をとりまく病棟・透析室・訪問看護ステーション・在宅介護支援センターのスタッフを対象に学習会を行ない、知識を習得、標準化した指導、及びケアを行う。
2. CAPD 連絡ノートを活用し患者の状態が一目で分かるように各部署との連携を強化する。

方法

1. 退院後の問題を明確にするため、患者・関係部署に現状把握を目的としたアンケート調査を行なう。
2. 病棟、透析室、訪問看護ステーション、地域ケア科、在宅介護支援センターの看護師を対象に、年 2 回の医師による CAPD の概論を中心とした学習会を開催する。
3. CAPD 手技取得のため、2~3 ヶ月に 1 回の割合で、業者コーディネーターによる実技指導を開催する。
4. 円滑な連携システムの一つとして標準的な医療を提供するために CAPD 連絡ノートを作成し活用する。

アンケート結果では、内容の甘さも意図とした結果をえることができなかった。面接調査の方がこちらの意図が伝わり有意な結果が得ることができたのではないかと想定される。医師による学習会、業者コーディネータ

一よる手技修得の学習会それぞれ有効であり継続を期待される意見が多い。

CAPD連絡ノートの内容は、データベース、入院中の経過、CAPDの治療の条件・手技・体調のチェックリスト、訪問看護師チェックリスト、本人・家族・ヘルパー・訪問看護師・外来看護師が記入できる連絡ページが含まれている。病院、患者・家族、介護保険サービスの、それぞれとの情報共有を目指したCAPD連絡ノートを意識して作成した。最高に多い患者では、CAPDノート、訪問看護ノート、デイサービスノート、ヘルパーノート等4冊から5冊のノートを持っていた。CAPD連絡ノートを活用することで1冊にまとめられ病院、家族、患者、介護保険サービスのそれぞれとの情報共有ができた。

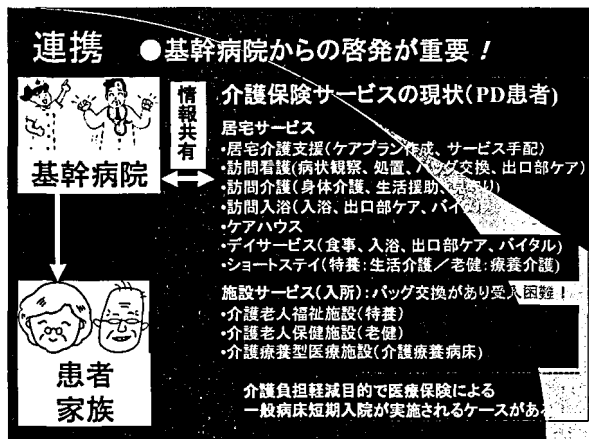
ができたことで、患者を含み、より訪問看護師、ヘルパー、施設職員等の自信にもつながり、他の患者の受け入れもスムーズになり安心して在宅治療へと向かうことができた。

まとめ

厚生労働省の研究によると、在宅でのCAPDは130項目のうち3番目に訪問看護業務の難易度が高く、高度の技術を要するものと言われている。連携システムを作るにあたり、CAPD連絡ノートの活用は有効な連携方法となり得た。早期退院、在宅医療が推進されている中、限られた家族と、有資格者だけでは在宅CAPD患者を支えていくには限界があります。将来、必ず増えるであろう在宅CAPD患者をしっかりと支える力として、地域における受け皿の拡大を期待したいと思います。また、基幹病院の役割として根気強く連携をむけて啓発していきたい。

参考文献

- 腎と透析 腹膜透析 2004 高齢者PDをよりよくするために
- 関西CAPDセミナー集録
- 腎疾患診療のジレンマ



結果

アンケート結果より各部署で知識、技術の習得状況に差があることが分かりました。そこで、学習会・講習会を行うことで、標準的で安全な技術の提供ができるようになった。今までは各部署の関わりが薄く、問題が明確になっていませんでした。患者・家族も共に使用するCAPD連絡ノートを作成することで、どの部署でも偏りのない情報を共有し、支援することができた。

また、外来受診時に持ち帰る衛生材料のチェック表も入り、渡し忘れが、なくなるなど、業務改善にもつながった。

今までも訪問看護の介入は図られており、安心の声も聞かれていましたが、このシステム

柳沢弘美 長野県厚生連佐久総合病院 4東病棟

〒384-0301 佐久市日田197

0267(82)3131